

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

スリランカ民主社会主義共和国

リディマリヤッタ地域開発プログラム (LKA-196092)



毎日コップ一杯の牛乳を飲んで
元気いっぱいだよ

牛の世話をするミランタ君(10歳)

チャイルドストーリー

近代的な農法や家畜の飼育により生計が向上し、 健康状態も改善したミランタ君の家族

リディマリヤッタ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むミランタ君の家族は、以前は天候不順が続くと作物が取れず、十分に食べることもままならない状態でした。しかし、2年前に両親がADPの農業技術研修に参加し、牛、ひよこ、種、苗木の支援を受け、研修で学んだ知識を実践しはじめてから、そんな生活は変わりました。家庭菜園で採れた作物から毎月約38米ドル、牛乳を販売することで毎月約60米ドルの収入を得ることができるようになったからです。

またミランタ君の両親は、農業技術だけでなく子どもの健康に関する知識も得ました。「私の子どもたちは以前はよく病気になり、医者に頻りに連れて行かなければなりませんでした。食べ物が原因で栄養不足だったのだと思います。でも今は家庭菜園で必要な野菜が採れます。野菜は新鮮で農薬などを使っていません。子どもたちは以前より元気になりました」とミランタ君の母親は言います。

ミランタ君の家族の生活は目に見えて改善し、家族の夢と希望は広がっています。「今ではお金を貯める事もできるようになりました。建設中の家ももうすぐ完成です」とミランタ君の父親は嬉しそうに話してくれました。



作物に水をあげるのが好きなんだ。牛にえさをやったり、鶏が産んだ卵をとりまくのもぼくの仕事

家庭菜園で働くミランタ君と父親の
コインマニケさん

保健衛生プロジェクト

特に貧しい世帯の生計向上と、子どもたちの栄養改善に取り組んでいます

2014年度は177人が小規模ビジネスを始めるためのトレーニングに参加し、うち66人が仕立てや養蜂、養鶏などそれぞれのスキルに合った小規模ビジネスと、貯蓄グループを始めています。また、有機農法で行う家庭菜園トレーニングを行い、371世帯が実践しています。野菜や果物を栽培

することで栄養価の高い食事が摂れるだけでなく、食費を貯蓄にまわすこともできます。さらに、子どものために栄養価の高い食事を作るトレーニングを実施し、幼稚園の教師を含む111人が参加したほか、地域の医療従事者へのトレーニングなども実施しました。

収入が増えて子どもの医療費が払えるようになりました



ADPの指導で縫製を学び起業したニルバさん

卵を食べられるようになって娘の体重が増え、収入も増えました。ご支援に心から感謝しています



子どもたちの栄養改善と卵の販売による収入向上を目指して養鶏を始めたヤサワティさん

\$ 66人が、新しいビジネスをスタート！



子どもの成長に必要な栄養価の高い食事について学びました。子どもの両親にも、どのような食事を与えたらよいかアドバイスしています

子どもたちの栄養改善のための研修に参加した幼稚園の教師、ラクミニさん



地域の女性のストーリー

家庭菜園を始め、子どもたちのために栄養価の高い食事を作れるようになりました

9歳と2歳の女の子の母親であるスリヤニさんの若い頃の目標は、縫製工場に働くことでした。11年生まで学校に通った後、勉強をやめて縫製工場で働きましたが、進学しなかったことを今でも少し後悔していると言います。その後スリヤニさんは結婚し、子どもたちと夫の母親とともにリディマリヤッダ地域で暮らしています。夫は220キロ離れた大都市コロンボに出稼ぎに行っています。

上の子どもがワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録されてから、スリヤニ



さんは農業の研修を受け、家庭菜園に必要な道具、種、苗木の支援を受けました。今では周辺の5世帯を代表するリーダーとなり、新たに養鶏にも挑戦しています。スリヤニさんは子どもたちの健康にも気を配っています。家庭菜園で採れた

新鮮な野菜を使って、カレー、ご飯、野菜料理を作り、養鶏を始めたことで卵も献立に入れる事ができるようになりました。「娘たちは野菜が大好きです。野菜は栄養価が高いので、たくさん食べてほしいです」と笑顔で答えてくれました。

栄養たっぷりの食事を見せてくれたスリヤニさん(31歳)

教育プロジェクト

地域の教育機関との関係構築に力を入れつつ、子どもたちの学習環境の改善に取り組みました

12の幼稚園に遊具や教材を支援したほか、46人の幼稚園教師に認知能力や応急処置のトレーニングを実施しました。学習環境が改善され、両親や保護者の教育についての理解が進んだことで、幼稚園に通う子どもの割合は2013年の43%から、現在は93%にまで向上しました。また、「子ども

クラブ」に参加する子どもたちにリーダーシップなどについてのトレーニングを実施したほか、虐待などの危険から子どもたちが守られるよう、保護者や地域のリーダーたちに子どもの保護についての啓発イベントを開催し、229人が参加しました。



子どもの創造性を育てる指導法の研修と教材の提供を受けた幼稚園

幼稚園に通う子どもたちが、
43% → 93%に増加



本や備品の提供を受け充実した学校の図書館で学ぶ子どもたち



「子どもクラブ」に参加しリーダーシップについて学ぶ子どもたち



ADPマネージャー・インタビュー

Q どんな仕事をしていますか。

A ADPの責任者として、予算管理、スタッフ管理、WV内外の関係者との折衝など仕事は多岐にわたります。

Q 仕事をする中で大変なことは何ですか。

A 限られた予算で地域の様々なニーズに応えていくのは大変な仕事です。また、プロジェクトの実施に必要な技術的な知識を持つ専門家からの助言をいかに得るか、地域のボランティアの継続的な協力をいかに得るかが難しい点であり、これらがプロジェクト成功の鍵だと感じています。

Q この仕事の何にやりがいを感じていますか。

A 地域の人々とともに働き、支援を必要としている人々に機会を提供できることは素晴らしいことです。これからもキリスト教精神を土台として、人々に正義、希望、平和を広げていきたいです。



リディマリヤツダADPマネージャー
シカ・サマラスンガ (39歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。2014年度は、家族や地域が子どもたちにとって安心して過ごせる場所になるよう、保護者や地域の大人を対象にした啓発イベントを開催し299人が参加したほか、チャイルドのモニタリングを担当するボランティアメンバー向けに、子どもの権利や保護についての講習を行いました。



スポンサーの方から送っていただいたクレヨンで絵を描くネツウミちゃん (6歳)

会計報告

LKA - 196092

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

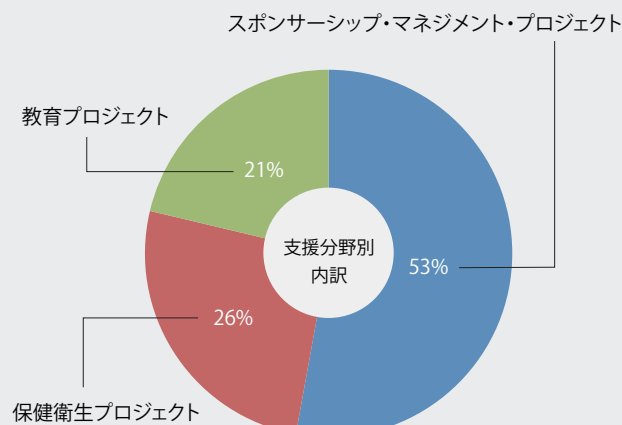
プログラム支援額 (単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	13,609,366
当期支援額	13,609,366
前期繰越金	2,554,722
プログラム支援額合計	16,164,088

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,504,590
保健衛生プロジェクト	4,160,194
教育プロジェクト	3,424,745

プログラム支出額合計	16,089,529
次期繰越額	74,559



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトには、子どもの権利保護のための啓発活動、地域の住民グループによるチャイルドの定期モニタリングといった活動が含まれます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**
電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : www.worldvision.jp
e-mail : dservice@worldvision.or.jp